

Cente Technical Information

発行番号	001-0001	Rev	第1版	発行日	2009/02/13
------	----------	-----	-----	-----	------------

題名	ARPキープアライブ機能の機能障害について
----	-----------------------

情報分類	障害情報
------	------

適用製品	<ul style="list-style-type: none">• Cente TCP/IPv4 Ver.1.20 - Ver.1.30• Cente TCP/IPv4 SNMPv2 Ver.2.00 - Ver.2.10• Cente TCP/IPv4 SNMPv3 Ver.2.00 - Ver.2.10• Cente IPv6 Ver.1.20 - Ver.1.40• Cente IPv6 SNMPv2 Ver.2.00 - Ver.2.10• Cente IPv6 SNMPv3 Ver.2.00 - Ver.2.10 ※ARPキープアライブを機能追加したバージョンが対象となります。
------	--

関連資料	なし
------	----

【詳細】

Centeミドルウェアでは、ARPキャッシュエントリがタイムアウトによって削除されないよう、定期的にARP Requestを送信する機能を持っています。(ARPキープアライブ機能)

Centeミドルウェアでは、ARPキャッシュエントリは以下のいずれかで作成されます。

(A) 相手からARP Requestを受信したとき

(B) 自分からARP Requestを送信し、相手からARP Replyを受信したとき

上記(A)で作成されたARPキャッシュエントリのため、ARPキープアライブ機能によって送信されるARP Requestパケット内容が以下のようになります。

ARP sender MAC ... Cente搭載機器のもの

ARP sender IP ... 0.0.0.0

ARP target MAC ... 00:00:00:00:00:00

ARP target IP ... ターゲット機器のもの

ここで、ARP sender IPがCente搭載機器のIPアドレスになっていないため、これを受信した機器が正しくARP Replyを返さないなど、他の機器の誤動作を誘発する恐れがあります。なお、上記(B)で作成されたARPキャッシュエントリでは、ARP sender IPは正しくCente搭載機器のIPアドレスになります。

【回避方法】

以下のいずれかの方法で回避してください。

• ARPキープアライブ機能をオフにする。

(詳細については、Cente TCP/IPv4ユーザーズマニュアルを参照してください。)

• 送信するARP RequestのARP sender IPが、Cente搭載機器のIPアドレスになるようソースコードを修正する。

(変更箇所については、別途お問い合わせください。)

上記ARP Requestによって、お使いの環境に何らかの障害が発生している場合には、上記の回避方法をご検討ください。

以上